



## 教授就任にあたって

歯科保存学第二講座 吉 江 弘 正

平成11年7月1日付けで、原耕二名誉教授の後任として歯科保存学第二講座を担当させていただくことになりました。昭和44年(1969年)4月に歯科保存学第二講座が開設され、初代の小林幸男前教授(故人)、第二代の原耕二名誉教授を経て、今年が講座開設30年ということになります。

私は、群馬県の片田舎で開業していた歯科医師の次男坊として、生を受けました。5歳上の兄の影響で、小さいときから、理科系とくに生物が好きで、小学校、中学校、高校とクラブ活動は、理科部、生物部を通しました。大学受験に際しては、兄が医師の道を選択したため、高校3年のときには、自分なりに「歯科医師になって、父の後を継ごう」と考えていました。そして、昭和46年に、新潟大学歯学部合格し、手続きに歯学部事務に行き、歯学部、附属病院を見学して、正直いってがっかりしました。現在の医学部赤門脇にあるブレハブ小屋、歯学部と附属病院は、医学部の旧校舎だったからです。現在の歯学部の建物からは、想像できない環境であり、当時の先生方、事務の皆様のご苦労はたいへんなもので、現在の歯学部の状況とは質的に違うものの、同じように厳しい状況であったと想像できます。

2年間の教養時代はかなり遊びましたが、学部4年間は歯科学に真面目に取り組んだように記憶しております。正直言えば、試験に落ちたくないという気持ちと、当時クラブには所属していませんでしたので、時間が余っていたのが主な理由であったと思います。各科目を勉強をしていくうちに、歯科学の面白さを感じる瞬間が多くなっていきました。そして、開業していた父をみて育った

私としては、「後を継ぐのではなく、父とは違った歯科医になろう」と意を変えたのは、学部3年の夏でした。

それから、光陰矢の如しで24年が過ぎました。自分なりにも努力しましたが、何と云っても、多くのすばらしい指導者、先輩、友人、関係者そして家族に恵まれ、歯科保存学第二講座を担当させていただくことになりました。私の誇りは、ここまで自分を育てていただいた母校「新潟大学歯学部」そのものであります。そして私の信念は、「状況を把握し、よく考え、努力すれば、道は必ず開ける」ということであります。

周知の通り、現在歯学部は厳しい状況にあるのは事実ですが、これほどやり甲斐のある時はないと認識していますし、多くの優秀な人材がいる本歯学部は、必ず良い方向に向かうと確信しています。本歯学部が創設され34年経ちますが、スタッフひとり一人の英知がこれほど期待される時は、今を置いて他にないと考えています。個人が生かされ、活躍できる絶高の時期とも言えます。

今後、私は歯科保存学第二講座、歯学部、歯学研究科、附属病院、歯科学の発展のため、さらには地域住民、国民に貢献できるようみずから研鑽していく所存であります。当講座の歯周病学・歯周治療学につきましては、「遺伝子・免疫診断」、「歯周組織再生・再建」、「全身疾患と歯周病予防」を中心に、国際レベルをめざして教職員とともに、教育・研究・診療と人材の育成に全力を尽くす決意であります。ご指導ならびにご協力のほどお願い申し上げます。教授就任の挨拶ならびに自己紹介とさせていただきます。